

- 本プロジェクトは、北海道積丹町余別地区の豊かな自然を活かして、これを素材にした積丹町の地域活性化方策を構築する目的で開始しました。
- 自然の豊かさを、まず、地元の方々を知っていただくため、冬季を中心に21回の現地調査を行うとともに、地元漁協青年部や積丹町役場とともに、2回の勉強会、道東標津町役場等への先進地視察調査を行いました。
- とくに冬季の雪面下の河川生産力のしくみを調査することは、これまでにない取り組みとなりました。



学生による河川調査



大学での水質分析



勉強会の開催



学生・漁協・役場の合同調査

私たちの取り組みと目標は次のように設定しました

環境調査(余別川)

将来に向けた持続性と波及効果



- ・水温連続観測
- ・水質等調査
- ・生物調査



- ・余別川の環境価値を数値で表す
- ・生産力と資源増大の可能性を図る

環境・資源調査など

- 地域住民に対する保護水面の重要性の認知度アップ
- 地域住民に対する余別の豊かな自然の認知度アップ
- 都市部に向けた余別の自然アピール
- 豊かな自然を素材にした都市部からの集客力向上
- 環境保全と観光素材の共存

- 地元における環境保全の意義と役割の理解向上
- 資源(漁業資源・観光資源)の質と量の増大
- 都市部からの集客力アップによる経済効果

環境保全と観光のランドデザイン構築

これまでにわかったこと、次の課題

- ・山からの湧き水は、いったん淵や谷地にとどまり、冬の間は熟成されて本流に流れ、高い生物生産力を与えることが分かりました。温度の効果も見られました。
- ・そのルートは、支流だけではなく、地下に浸透した水も大きな役割を果たしていました。
- ・先進地調査では、自然環境と生物を上手く活かして、教育の場として活用する例を調べてきました。
- ・教育の場としては、首都圏などからの修学旅行や研修旅行が中心でした。
- ・とくに地元の方々直接、地域環境や生物を説明することにより説得力や感動が生まれることが分かりました。サンクチュアリーはその中心的な役割を担うことが可能です。
- ・豊かな自然、おいしい食材は積丹にはそろっています。「何もない」と思われていた余別の自然が実は大きな資源であることが分かり、次は具体的な設計となります。